

府中基地における訓示：平成26年8月21日(木)

府中基地に所属する隷下部隊の諸官、航空支援集団の任務遂行に昼夜を問わず精励努力していることに對して心から敬意を表したい。私が現職に就く以前においてこの基地で勤務したのは一度だけ。平成6年西空司令部の防衛班長の職にあった折り、米国フロリダで実施されたブルーフラッグと称する日米共同指揮所演習に参加のため、当時府中基地に所在していた総隊司令部に臨時勤務した経験がある。

當時を振り返れば、当集団が改編されて間もない頃で、また国際平和協力活動に初めて参画するなど、支援集団にとって任務及び活動に大きな変貌を遂げようとする先駆けの時代であった。

さて、私が航空保安管制及び航空気象に関して存在意義を最も強く意識したのは、千歳基地司令の職にあった平成19年から21年。特に、平成20年7月北海道洞爺湖サミットを現地で統合任務部隊指揮官として全面的に支援した時のことであった。

今でも記憶に鮮明に残るのは、参加26カ国等の首脳が搭乗した各国政府専用機が「ともすれば東京方面へ到着目的地を変更しなければならなり霧による天候不順の状況下で、千歳空港に次々に着陸。この全機着陸の成果を成し遂げた陰には、管制塔で保安管制業務にあたる管制隊、期間中シーフォグの進入を的確に掴むために苦小牧に進出してまで予報にあたった気象隊の存在があった。

こうした貴重な経験を通して、私が今般管制群及び気象群を指揮するに至ったことは誠に光栄なことであり、心から感謝する次第である。

ここで私が就任の辞の中で示した3つの統率方針の細部説明を行うこととする。3つの方針は①変化への適応②矜持の保持③改善と自律の追求である。先の2つの項目は今日ある集団の良き気風と伝統を継承するという観点から、前司令官の所信からいただいたことは就任の辞で述べたとおり。

一つ目は、「変化への適応」。前司令官の言葉を借りれば、「ダーウインはその進化論の中で『生き残るのは強いものでなく、賢いものでなく、環境の変化に最も敏感に適応したもの』と表現。組織や人もその例外ではない。過去の成功体験にこだわる事なく、時代の要求、情勢の変化等に敏感に反応し、先見性を持って変革することを恐れてはならない。伝統とは変革、改革、改善の積み重ね。

二つ目は、「矜持の保持」。航空自衛隊はその基本理念のひとつに「国家主権の保持 国民の安全確保」を掲げている。これは我々隊員があまねく任務遂行上の共通の価値観であり、誇りと使命感と共に胸に秘め、これらにふさわしいプロとしての言動、すなわち『矜持』を持つべきとしているものである。

三つ目は、「改善と自律の追求」。改善は厳しい環境、特に予算と人員の制約を受けながらも増える業務量を的確にこなし、より質の高い任務遂行を目指すために不可欠な行為。また自律は、諸官ひとりひとりが隊員として、国民として健全な勤務や生活を行う上で必要な行為。ぜひ不注意であった、魔が差した、迂闊だったなどと軽率な行為に自らをさらすことのないよう、自らを強く律してもらいたい。

結びに当たり、防衛省・空自創立60周年、支援集団創設25周年の大きな節目の年に、航空観閲式をはじめとする各種行事・事業を成功に導いていこう。

今後とも本田管制群司令及び高橋気象群司令を中核に、付与された任務を必ず完遂させるとともに、隊員ひとりひとり、より良き人生を全うせんがため、厳しい規律の中にも明るく、爽やかな気風を維持しつつ、「任務完

遂 事故皆無」をモットーに、人・物をいとおしむ心を持つ大空のつわものにならんことを諸官に強く要望し、初度視察の訓示とする。